

令和5年度 小樽市立望洋台中学校 学力向上改善プラン

1 生徒の実態

昨年度の標準学力調査結果では、正答率において数学と英語は全国平均を上回り、国語は全国平均を下回った。国語の領域別における「書くこと」に課題が見られる。この点は、昨年度の全国学力・学習状況調査においても「記述式」の正答率が低かった点において共通している。

また、生徒アンケートの結果から「毎日、家で勉強する習慣がある」生徒は、1年生 60.9%、2年生 59.0%、3年生 71.4%であった。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト平均正答率を全道平均以上にする。
2年	・標準学力調査平均正答率を全国平均以上にする。
3年	・全国学力・学習状況調査結果を全国平均以上にする。

<数学科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト平均正答率を全道平均以上にする。
2年	・標準学力調査平均正答率を全国平均以上にする。
3年	・全国学力・学習状況調査結果を全国平均以上にする。

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・毎日、家で勉強する習慣がある生徒を70%以上にする。
2年	・毎日、家で勉強する習慣がある生徒を70%以上にする。
3年	・毎日、家で勉強する習慣がある生徒を70%以上にする。

3 目標を達成するための具体的な方策

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①各学年の学力実態の推移の的確な把握
- ②教育課程、年間指導計画の改善による授業時数等の充実
- ③シラバス提示による学習規律、学習方法、学習評価基準の明示

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①小樽授業づくり5つのSTEPの確立
- ②9年間を見通した望洋台小学校との連携

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①シラバスによる家庭学習のあり方についての提示
 - ・1日の学習時間の目安
(1年80分以上、2年90分以上、3年100分以上)
 - ・各教科における取組方法
- ②「おたるスマート7」の周知と徹底
 - ・HPや保護者会などを活用した啓発
 - ・スケジュール手帳の活用によるタイムマネジメント力の育成と支援体制の構築

（4）その他

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R5年 4月	・校内研修を通じた5つのSTEPの確認 ・朝の活動の時間を利用した全校一斉の朝読書、チャレンジテストの取組開始 ・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・スケジュール手帳の記入(ガイダンス) ○R5全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点
5月	○標準学力調査実施（第2学年）
6月	○標準学力調査結果分析
7月	・テスト前スタディホール（学習会）開催 ・学校評価・生徒・保護者アンケート・授業アンケートの実施と分析、生活実態の把握 ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・夏休みスタディホール開催
8月	○R5全国学力・学習状況調査結果分析
9月	・テスト前スタディホール（学習会）開催 ○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
10月	・校内研究推進（望洋台小学校と連携した授業交流）
11月	・テスト前スタディホール（学習会）開催 ・学校評価・生徒・保護者アンケート・授業アンケートの実施と分析、生活実態の把握
12月	・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施
R6年 1月	・冬休みスタディホール（学習会）開催 ・校内研修の成果と課題の整理→次年度の方向の決定 ・教育課程委員会が新年度教育課程改善案作成・決定
2月	・新年度校内研修推進概要確定 ・チャレンジテストの実施
3月	・テスト前スタディホール（学習会）開催 ・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ○新学力向上改善プランの作成

5 評価方法

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①標準学力調査、全国学力・学習状況調査の実施（4月）
- ②チャレンジテスト、定期テストの実施（各学期）
- ③生徒アンケート、授業アンケートによる検証（7、12月）

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①授業アンケートによる検証（7、12月）
- ②公開研の成果を生かした校内研究授業による検証（10～11月）

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①生徒アンケート・保護者アンケートの分析・報告（7、12月）

（4）その他